０２／１２／０１　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：信仰による罪の救い
聖書個所：ローマ人への手紙　４章２２―２５節

この国の最近の現象の一つは、中高年の自殺者が急増していることであると、また 2002 年の犯罪白書によると、犯罪件数は戦後最高であり、しかも強盗や恐喝の増加が顕著であるといいます。その中でも 50 歳以上の年齢層や初犯者の犯行が目立つとのことです。マスコミはいいます。恐らくこれは長期化する不況の影響ではないかと。孤独死の数が増えていることも心痛むことです。死が近づいてきて、それが自分に身近なことに感じる年齢になって、自分の人生を振り返ってみて、自分はいったい何のために生きてきたのだろうと考えるものです。皆幸せな人生を望みそれを願って生きてきたにもかかわらず、私たちの周りにはその人生を呪っている人の何と多いことでしょう。幸せになることは夢なのでしょうか？唯今の現状に満足するように、それが幸せなのだと自らに言い聞かせていくこと、そういう人生なのでしょうか？
人生を終えた一人の人物について、聖書にこのように記されています。「アブラハムは平安な老年を迎え、長寿を全うして息絶えて死に、自分の民に加えられた。」（創世記 25：8）と。ここに幸せな人生を過ごした人がいたのです。主の祝福を溢れるばかりにいただきながら過ごした人が。しかもこの地上においてだけでなく、永遠の祝福＝天国＝をも与えられました。アブラハムがこのような祝福をいただいたそのカギは彼の信仰です。そのことについて、私たちは先週、その一部を見てきました。アブラハムはどんな時にも、神がどれほど偉大な方かを覚えたのです。しかし、アブラハムは生まれながらに主なる神を信じる信仰をもっていたわけではありません。あるとき、主のみことばを聞いたとき彼は主を信じるのです。この時から彼の祝福された人生が始まるのです。この原点を私たちは決して見落としてはならないのです。これが最も大切なことだからです。
ローマ 4：22 はアブラハムの人生の転機、彼の救いについて書かれています。「だからこそ、それが彼の義とみなされたのです。」と。このことばは 4：3 にもありましたが、これは創世記 15：6 のみことばの引用です。神はアブラハムを外に連れ出して、空の星を見せて「天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。あなたの子孫はこのようになる」と神はいわれました。それを聞いたアブラハムはどうしたのか、「彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」とこのみことばがローマ 4：3，4：22 に引用されているのです。アブラハムがしたことを見ましょう。
『彼は、主なる神のことばを聞きました　⇒　そのみことばを受け入れました　⇒　確信に基づいて行動しました。』　この三つです。確かに神がいわれたことは人間の理性や常識や経験からみて信じがたいことでした。しかし、アブラハムはこれは神がいわれたことだから、といわれた方を信じたのです。これが神のことばを聞いたときのアブラハムの取った態度です。神が出て行きなさいといわれたとき、どこへ行くのかわからないまま、彼はいわれたことに従いました。聞いて信じて、そして、行ないが伴ったことがわかります。このような選択をしたアブラハムに何が約束されたでしょう？22 節にあります。「彼の義とみなされた」と。義なる者、正しい者とみなされたのです。「みなされた」とは、考慮する、判断する、そのように思って扱う、宣言する、という意味です。神がアブラハムを見て、このアブラハムを正しい者と宣言されたということです。「認める、みなす」ということばは、法廷で使われる裁判の用語です。裁判長である主なる神が、ご自身の判断で信じる者を正しいと宣言してくださること、それを教えるのです。
私たちは主を信じ罪を赦されたらもう罪を犯さなくなる、などと考えたことはありませんか？もしそうなら、あなたはきっと今苦しんでいるはずです。私たちはなかなか変わりません。同じ過ちを繰り返します。心の中でこれは間違っている、止めようと思ってもできないものです。「義と認める」というのは、そういうことではありません。神がこの人は正しいと宣言されるのです。裁判の様子を想像してください。裁判長が判決を下しますが、それが有罪であっても無罪であっても、その人の性質がそれによって変わるわけではありません。有罪であれば刑を受けます。無罪であれば自由になります。その立場、身分が変わるのです。神は、罪深い人間に対して、イエス・キリストを信じる者を無罪と宣言し、正しいと宣言してくださったのです。私たちに新しい身分、新しい立場が与えられたのです。神の子としての、キリストの弟子としての新しい身分です。だからといって、私たちの罪の性質まで完全になくなったわけではありません。変わるものではありませんが、神は新しい身分を与えてくださるのです。アブラハムの救いは、彼が良いことをしたから与えられたのではありません。「神のことばを受け入れ信じた」、これがカギです。そして、アブラハムは救われていたから、神に忠実に生きたのです。

23,24 節には、アブラハムが義とされたことはまた、私たちのためでもあるとあります。信じるすべての者に与えられる祝福です。23 節にある「彼の義とみなされた」の「義」は、日本語訳にだけ加えられています。「みなされた」はこれが確実なことだとしているのです。神のみこころによって、～をすることになるというのです。アブラハムと同じ信仰をもつなら、アブラハムと同じようにその救いが確実に与えられるのです。イスラエルの王であったダビデはこのように言っています。詩篇 32：1，2「幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。幸いなことよ。主が、咎をお認めにならない人、心に欺きのないその人は。」、罪赦された祝された者よと。罪の赦しをいただいた人こそ最も幸いな人であるというのです。

☆救われるための段階を見ましょう。

STEP1＝聞くこと
私たちが知るべきことは、1．本当の自分について、２．本当の神について、３．本当の救いについて、です。
１．本当の自分について
(1)自分の状態＝罪人であること＝を知る
聖書が教える罪人とは、刑法を犯した犯罪人ではありません。神はその人の神に対する思い、関心に目を留められます。ローマ 1：21 から見ましょう。1：21「

本当の神を崇拝しない、自分に都合の良い神をつくる、偽りの神を神としている、罪とわかりながら平気で行なっている、とこれらは人間本来の姿です。すべての人には善の思いが植え付けられています。